

大庭 柯公 おほば 評論家。明治五年七月二十七日山口縣生れ（一八七二）。本名景秋。筆名かひ字、大庭柯、柯、大場景秋等。大庭景明の二男。ロシア語を學び、一葉亭回述と交流。通譯官として日露戦争に従軍。のち「大阪毎日新聞」、「東京日日新聞」、「東京朝日新聞」を轉々。大正七年雜誌「我等」創刊に參劃。また黎明會、社會主義同盟に加はる。八年「讀賣新聞」編輯局長、十年革命直後のロシアに渡ると、以後消息不明。「柯公全集」全五卷・別巻「柯公追憶文集」（大正十四年四月五日—九月）、「柯公全集刊行會」がある。

著書「露西亞に遊びて」（大正六年九月十五日大阪屋號書店）、「其日の話」（大正七年十月）、「二十五日春陽堂。改題再刊「江戸團扇」昭和六年十二月十日中央公論社「中公文庫」）、「ロペンの踊」（大正十一年一月十日大阪屋號書店）等。

